

学校・家庭・地域の連携で よいまちづくり

地域に合わせたテーマで
関心高く参加者増える

六月二十日に上町を皮切りに十四の集会所で行われた地区懇談会は七月十一日星山を最後に、延べ三三六人が参加。講師には、「熱中症対策について」は保健センター、「交通安全全対策について」は警察OBの雨谷高市氏、「振り込め詐欺防止対策について」は警察OBの大塚松寿氏と市消費生活センター、「青少年の非行防止について」は笠間警察署の方々からお話をいただいた。

☆講師のお話(抜粋)
●二七電話詐欺の被害者は女性高齢者が多い。犯人は息子や孫を語り、切羽つまった話をしてくるので一人で判断しない。

●今年笠間警察署管内で、高齢者二人の死亡事故発生。夜間の歩行には反射材等を身につけるのが有効。車のライトの早目点灯。法改正の自転車走行には十分注意を。
●非行の子どもを出さないためには夫婦仲良く、近所付き合いも良く、子どもにはルールやマナーを教



▲「熱中症対策」も好評 中町で

え、あいさつが出来るようにする。
●ハガキによる架空請求詐欺が増えている。お金、健康、老後の不安につけ込み、悪質業者が高齢者を狙う。
●水のがぶ飲みではなく、少しずつ何回も飲む。朝食をとらないと熱中症になりやすい。
宍戸小、友部中、友部高の先生方も参加され、共に学校生活は落ち着いて、学習に運動に取り組んでいること等が話された。

自転車通学が心配

下加賀田の若いお母さんは、「中一年生の自転車通学は、重い荷物を積むためよろよろして危険を感じる。見かけたドライバークは、やさしい運転をお願いしたい。
雨の日の朝、友中前の踏切内で、すべて転倒したのを見た。友中先生には、踏切まで来ていただき見てほしい」と話した。

たすねてみたら No.88

ランナーに読める空気感



「スイム・バイク・ラン」を楽しむ
田口真澄さん
大田町2

「走る」を続けられるわけをお聞かせ下さい。いくつかのコースでジョギングをしていると時間帯によって同じ人に会うこともあり。やすらぎの森の坂を駆け上がってくる人、北山公園の森の中で会うトレイルランナー、松山団地外周を走る人。

さらにロードバイクという軽くて早い自転車移動範囲を広げると、ビーラインや愛宕山への坂道、酒沼川沿いの田舎道でも同様にサイクリングしている人に会います。ゆかいふれあいセンターでもやはり何度か見た

ことのある顔ぶれに気がつきます。

出会う人との会話はありますが、視線で会話していると感じるの私だけでしょうか。「涼しいから走りやすいね」とか「来月は笠間マラソンだね」とか「登りはつらいけど、下りは爽快だよ!!」と坂を下る自転車、「空いているから泳ぎやすいね。」と綺麗なフォームで泳ぐ人。励ましや楽しさを声に出して共感するチームスポーツと同じような感覚が、一人でやっているジョギングや自転車や水泳では音が無くても空気で伝わるのを感じますし、そう感じ取れた方が楽しく続けられます。

ランで早いタイムは出せない、他の泳法は出来ないけどクローラなら泳げる、ペダルを回せば前に進む自転車。私は三種に突出した能力はありませんがスイム、バイク、ランを連続すると、それはトライアスロンです。

そして年に数回、各地の市民向け大会に出ることはお祭り感覚であり、それぞれのランナーは「またどこかの大会で会いましょう」と空気で会話して終わるのです。

「ありがとう」福祉バザーの日



▲子どもたちに人気の売場

物が地域をつなぐ輪になっていくバザーのイベントが、五月二十三日宍戸小運動会にあわせて、宍戸小体育館で開催されました。バザー開始の放送と同時に

「きれいな風車」をつくりましょう
協力して工夫して

に、入り口で渡された大袋を手に入勢の人が、お目当ての品を指し売場へ急ぎました。
人気商品は、シート・洗剤・調味料等で売れゆきも上々。早々と売り切れる商品もありました。売り出されるまでには、地域の方々の協力があり、購入品が生活の中で再度活かされ、また売り上げた利益は、地域の方々に還元される福祉バザー。
良く良く考えれば、地域の皆が繋がっている事に気づかれます。売上金は、三二四、三三〇円でした。
バザーに関わった一人として、協力して下さった皆様に感謝の気持ちで一杯です。

八月九日「ものづくり・食づくりわくわく体験」が支部会館で行われた。

参加者は子ども十四人、保護者六人、関係者二十六人。学校では体験出来ないペットボトルを利用した「きれいなかざるま」づくり挑戦した。

指導者の會澤和美さん(南小泉一)は、子どもたちに「工夫して助け合って、きれいな風車を作りましょう。」と話した。

ペットボトルが風車になる説明を聞き逃すまいと、皆さん會澤さんに注目した。
ものづくりの時間がかり、食事づくりの体験が出来なかったが子どもたちは、大きなスイカを等分に切る作業をした。

六色のきらきら光るテープを工夫してはりつけ、個性ある風車が出来上がった。扇風機にかざし、まわり始めると「まわった」「きれい」



▲會澤さんの指導に納得

午後には面白おかしく語る大塚松寿さんのマジックショーに大喜び。「えー?何んで?」の声。時々、種や仕掛けが見える場面もあり館内は大きな笑い声に包まれた。
帰り際自分で作った風車に何度も「フーツ」と息をかけたながら持ち帰る姿が印象に残った。

情性を育てるきぬ川学院 福祉推進員の研修

十月二日に福祉推進員ら四十二人が栃木県にある国立きぬ川学院を視察した。

きぬ川学院は、児童福祉法に基づき国立の「児童自立支援施設」で全国から十八歳未満の非行児童三十二人が入所している。そのうち中学生が二十三人を占める。入所者の多くが、実母を含めた養育者から身体的・性的虐待や養育放棄で、自暴自棄になり非行もエスカレートし、敢えて不純交際等に走ると言う。

子どもたちの胸の内を代弁する女性職員の話に参加者の皆さんは耳をすませて聞いた。

一年七ヶ月の入所期間中、家族

的雰囲気の中で規則正しい集団生活を営ませるとともに、地域連絡協議会と連携し、地元での職場体験をさせる等、良好な人間関係を身につけさせ、社会的自立を支援している。

しかし虐待等により親子関係が破綻している場合は、その修復はむずかしい。退院後、親は子どもの成長を認めることが必要とも話した。

参加者の多くは、改めて親の愛情が一番大切であることを実感したようだ。



▲女性職員の案内で院内をまわる

第27回 GROUND GOLF 三連覇達成！高橋さん



▲個人の部 1位 高橋敏記さん
2位 楠原千広さん 3位 永山 進さん

雨天順延となった第27回高齢者グラウンドゴルフ大会が、六月十日北山グラウンドで開催された。

支部長は挨拶の中で「ゲームに熱中するのは良いが、熱中症にならないように」と話し、笑いをさそった。

梅雨の晴れ間の真夏日に参加選手25チーム83人は日頃の練習の成果を発揮した。

表彰者(敬称略)

☆団体の部

- 1位 松山団地松寿会A 129点
- 2位 松山団地松寿会B 131点
- 3位 橋爪いきいきクラブA 132点

☆個人の部

- 1位 高橋 敏記 松山団地2 36点
- 2位 楠原 千広 橋爪1区 37点
- 3位 永山 進 旧陣屋3区 39点

雨天順延となった第27回高齢者グラウンドゴルフ大会が、六月十日北山グラウンドで開催された。

梅雨の晴れ間の真夏日に参加選手25チーム83人は日頃の練習の成果を発揮した。

地域のひとと心豊かに



旧陣屋1区 安達正男

「人間は社会的動物である」と有名な哲学者が言ったそうです。私がこの旧陣屋に移り住んだのは昭和61年8月でした。

子どもたちはまだ幼稚園や小学生で、妻も私も近所には知り合いは無く、会う人は皆、初対面でした。

名前からして古い因習にはまった社会かも？と思いきや、地域の皆さんには暖かく迎えて頂きました。

私は「旧陣屋レクリエーションクラブ」に入会。子ども会や少年野球チームに関わって豊かな地域生活が始まりました。

まちの声・むらの声

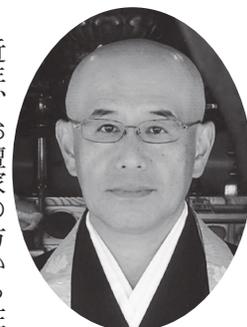
近年、お檀家の方から住職へのご相談で多いのは終活です。背景には、核家族と少子高齢化があります。大家族であれば、自然とご先祖様への敬慕の念や礼儀が祖父から子や孫へと伝承されました。しかし今は、高齢になり病気が認知症などの心配がある中で、自分の死後のことを「近所や子どもや孫に頼れない方が増えているのです。そこで、菩提寺や業者に依頼せざるをえなくなり、準備としての終活が必要となる方が増えています。個人の生き方を大切に生きてきた現代人は死を考えた時、エンディングノートなどを活用しながら日常の生活を共にしない子孫へ、自分の思いを伝えようと努力する必要が生じているわけです。

現役時代は、遠く美浦、結城などで仕事し毎日の激務から解放されて、家庭菜園を楽しめるよう

になりました。狭い菜園ですが大豊作を夢見て耕す毎日です……が、いざ収穫期になると、なかなか上手くいけません。そのギャップに妻が、労をねぎらいながらも、笑い顔で評価してくれます。

現在、まだ仕事を続けながらもボランティア活動を大切にしたい。モニカクラブ「せせらぎ」や、レクリエーションクラブに所属させて頂いております。これからは社会福祉協議会や地域の行事等のお仲間に入れて頂きつつ、残された人生を皆さんと一緒に過ごせれば有難いと思っております。

「命のバトン」を憂える



小人町 村上幸文

近年、お檀家の方から住職へのご相談で多いのは終活です。背景には、核家族と少子高齢化があります。大家族であれば、自然とご先祖様への敬慕の念や礼儀が祖父から子や孫へと伝承されました。しかし今は、高齢になり病気が認知症などの心配がある中で、自分の死後のことを「近所や子どもや孫に頼れない方が増えているのです。そこで、菩提寺や業者に依頼せざるをえなくなり、準備としての終活が必要となる方が増えています。個人の生き方を大切に生きてきた現代人は死を考えた時、エンディングノートなどを活用しながら日常の生活を共にしない子孫へ、自分の思いを伝えようと努力する必要が生じているわけです。

現役時代は、遠く美浦、結城などで仕事し毎日の激務から解放されて、家庭菜園を楽しめるよう

の会話の中で「命のバトン」が行われてきたものが困難になり、実際にそのような会話を機会が葬儀や法事・墓参などの機会、だけになりつつあるのではないかと感じ、危惧しているところです。

夏の思い出

(曹洞宗龍徳院住職)

ものづくり・食卓 づくりわくわく体験

きれいなかざぐるまができました。テーブルでいろいろな色をつかってやったので、楽しかったです。とてもよく回ったので、うれ

石岡の歴史を学ぶ

友部公民館主催、社協六戸支部共催による、歴史を学ぶ(石岡市)が9月11日に行われ31人が参加しました。

石岡の地は天平13年聖武天皇の勅願により、全国66か所の一つとして国分僧寺・国分尼寺が建てられました。常陸国の国府がおかれ、中・近世には府中とよばれ政治・経済・文化の中心地であった町です。

最初に訪ねたのは常陸国分寺跡、講師の南秀利先生のお話では「延喜式」によると寺料6万束があたえられ、近江国分寺と並び全国最大級です。幾度かの兵火で当時の建築物はありませんが、境内には本堂、金堂の遺構や七重塔の心礎が残っている」とのことでした。

石岡の街は大火に会い、その復興時に道幅を広げるため「看板建築」なるものが考案され今なお軒を並べています。私たちは史跡を巡りながらの「町並み

しかったです。カレーもおいしかったです。おかわりもしました。マジックショーも、おもしろかったです。また、いきたいです。(四年 大野 加奈)

今日は物作りわくわく体験で、「かさぐるま」を作ったことが楽しかった。テーブルをはるのに2人できょう力して、きれいに作れたことがうれしかった。カレーは甘口でおいしかった。マジックショーでは、いろいろななしかげがあるのが楽しかった。(三年 長山依咲希)

散策」を楽しみました。国衙跡をはじめ、澄んだ空気が漂い、悠久の歴史を感じる常陸国総社宮、府中松平氏の菩提寺「照光寺」、府中宿本陣「矢口家」、正岡子規の句碑がたつ「金毘羅神社」、天狗党が集結し筑波山に向かった「鈴宮稲荷神社」、午後には茨城町の「小幡北山植輪製作遺跡」に立ち寄り帰途に着きました。

暑さを感じる日でしたが公民館、社協職員の皆様による交通安全誘導に助けられた約8500歩のすがすがしい健康歴史旅でした。(羽生記)



▲国分寺都々一坊扇歌堂前で説明を受ける